

陳情第1号

科学的根拠と財政合理性に基づく「網野温泉プール」等の存続および再活用に関する陳情

下記の者から別紙要旨による陳情書を受理したから、議会の審議に付する。

記

陳情者 京都府京丹後市網野町 XXXXXXXXXX
小石原 しのぶ

令和8年2月25日 提出

京丹後市議会議長 中野 勝友

令和8年第2回京丹後市議会3月定例会

陳情文書表

- 1 件名 科学的根拠と財政合理性に基づく「網野温泉プール」等の存続
および再活用に関する陳情
- 2 受理年月日 令和8年2月4日
- 3 受理番号 第1号
- 4 陳情者 京都府京丹後市網野町 XXXXXXXXXX
小石原 しのぶ
- 5 陳情の要旨等 別紙のとおり
- 6 付託委員会 産業建設常任委員会

京丹後市議会

議長 中野 勝友 様



2026年2月 4 日

「静の里温水プール」の存続を願う会

代表 小石原 しのぶ

京丹後市網野町

副代表 上田 恵子

京丹後市網野町

科学的根拠と財政合理性に基づく「網野温泉プール」等の存続および再活用に関する陳情

【陳情の趣旨】

私たちは、網野温泉プール（旧静の里温水プール）および旧温泉棟について、性急な解体方針の見直しを強く要望します。科学的データ（耐震診断等）および長期的な財政シミュレーションに基づき、既存施設の有効活用を求めます。解体に多額の公費（概算13億円以上）が必要な現状を踏まえ、補修・再生による活用こそが、「SDGs未来都市」並びに「行財政改革」の観点からも最も合理的だと考えます。検討会議では私たちの会からも委員として意見を述べました。提言書では、公営プールの意義について市民の健康作り、教育利用など様々な点から高いものがあると認めた上で、財政など諸事情から「ただちに新設は困難」と結論づけています。提言書に沿ってプールの今後の在り方を考える際、旧温泉棟の活用も視野に入れた温泉プールの改修復活が最も妥当であると判断し、陳情いたします。

【陳情事項】

- 科学的根拠の明示（安全性の確認）**： 解体・廃止決定前に現行基準に基づく詳細な耐震診断（Is値の算出）を実施し、補強に要する正確な費用や危険性の有無を市民に開示すること。
- 財政比較の再考（コスト論の適正化）**： 「解体費（約13億円）」及び「新設費」の合計負担と、既存施設を長寿命化（必要最小限の設備更新・補強）した場合の費用とを比較し、今後20年間のトータルコストが最小となる選択肢を採用すること。
- 教育環境の公平性確保（教育の機会均等）**： 学校プールの代替案として示唆されている民間・近隣市町への委託について、相手方自治体の正式な受入確約の有無を明示し、市内全域の児童が公平かつ安価に水泳授業を受けられるよう、本プールを拠点施設として活用すること。

4. 防災拠点の機能回復（資産の保全）：避難所に指定されている旧温泉棟について、災害時のライフライン（ボイラー、8,000L燃料タンク等）を保全し、実効性のある防災拠点として機能回復を図ること。

【陳情の理由】

1. 科学的根拠（Is値）の欠如と説明責任

市は施設の老朽化を理由に廃止を進めていますが、議会答弁等で客観的指標である「Is値（構造耐震指標）」が算出されていないことが明らかになっています。検討会議では担当課も「直せば使える」と認めており、詳細な診断を行わず「危険である」と断定するのは科学的根拠に欠けます。診断費用を惜しみ、あと20年以上使える数億円の価値ある市民財産を廃棄することは、行政としての説明責任の放棄であり、まずは正確な診断を行うべきです。

2. 莫大な解体費と既存ストック活用の経済合理性

市の試算によれば、解体には13億円以上の巨費が必要です。「財政難だから廃止する」としながら更地化に13億円を投じるのは矛盾しており、その一部を設備更新や耐震補強に充当し10～20年利用する方が納税者にも納得感があります。「壊すための借金」ではなく「使うための投資」への転換を求めます。

3. 学校プールの「他力本願」な計画への懸念

提言書案では学校水泳の近隣市町の施設活用が示唆されていますが、受入確約の有無が不明です。他市町に責任を委ねる計画は危うさを孕んでおり、公教育の公平性にも問題があります。現在一部の小学校のみインストラクター指導を受けている状況も公平性を欠いています。天候に左右されない公営プールを「学校プールのセンター施設」として再生し、安定した教育環境の確保が必要です。

補足：

- ① 現在の小学校プールの今後10年の運営費の試算は現状が続くとして約5000万円。その10年以内に設置以来50年経過で全面改修が想定される8校のプールの改修費用は13億円。合わせて13.5億円と試算されています。
- ② 今後は各校プールの状況を見て対応していきたいとのことですが、それは行き当たりばったりと同義であり、安定した教育活動から乖離するものです。
- ③ 14校全てを民間委託した場合、10年で約1億とされ、改修の場合の10年間の運営費8.8億円と比して非常に有利なように示されています。
- ④ しかし現実に14校全ての民間委託は物理的に無理であり、近隣自治体の施設利用もこちら側の都合に合わせた利用は困難と考えられます。

4. 防災拠点の機能回復と活用

旧温泉施設は入浴サービスが不可能なだけで立地も良く活用可能であり、避難所指定もされています。8,000Lの灯油タンク、チップボイラーの活用、56L/分と湯量は減っているものの温泉水は

災害時に非常にありがたいものです。現在避難場所として「静の里」と明記されていますが、災害時に建物の中に入ることもできません。活用方法はいくらかでもあります。早急に適切な整備をして利用可能とすべきです。

5. 健康寿命の延伸と社会的包摂 (SDGs)

民間のプールは利用料や会員制度の壁があり、全てのリハビリ需要や高齢者の健康維持をカバーできるわけではありません。高齢者大学でプールを使った運動を取り入れれば利用者の増加も見込めます。市民が誰でもいつでも安価に利用できる公営プールは市民全体の健康増進、体力作り、高齢者の健康維持のために極めて有効であり、本市の掲げる「百歳長寿」のまちづくりに大いに貢献するものです。SDGsの「誰一人取り残さない」理念のもと、多世代が安価に交流できる公営プールは医療・介護費抑制の観点からも市が責任を持って維持すべきインフラです。

(※別紙「市民の声」参照)

検討会議では科学的根拠が示されませんでした。検討会議終了後に出された資料(資料4-1)等も踏まえ、どうか、議会の議員さんにおかれましては、以上の各項目をご確認いただき、今ある施設を廃墟にするのではなく「温水プールの存続と温泉施設の再活用」に是非ともお力添えいただきますようお願い申し上げます。

【別紙資料】パブリックコメントに寄せられた市民の切実な声（要約・抜粋）

令和6年8月に実施された「浅茂川温泉静の里・浅茂川温泉プールのあり方・利活用」に対する意見募集では、136件もの意見が寄せられ、その多くが存続を求める切実な訴えでした。

特に、高齢者の健康寿命延伸、児童の健全育成、そして地域間格差の是正に関する具体的な証言を以下に抜粋します。

1. 高齢者の「命綱」としての役割（健康維持・リハビリ）

医師からの推奨や、要介護予防の実践の場として不可欠であるとの声が多数寄せられています。

- 「現在80～90代の利用者も多く、腰が曲がった方も自力歩行維持のため筋力維持に努めている。**廃止は健康寿命への影響が大きい**」
- 「医師から水中ウォーキングを勧められ半年、血圧も安定し肩こりもなくなりすっかり元気になった。**後期高齢者にとってなくてはならない場所**」
- 「36年前に腰を痛めて以来、リハビリと健康維持のために通っている。お陰で腰痛も治り元気になっている」
- 「地上では歩きにくいですが、プールの中では一人で歩ける。術後のリハビリとして先生からも勧められている」
- 「医療費、介護費の削減にも繋がっており、年金暮らしにはありがたい施設。健康長寿を目指す市の方針に合致するはずだ」

2. 子どもたちの「育ちの場」としての役割（教育・体力向上）

猛暑による学校プールの使用困難や、共働き世帯の送迎負担への懸念が強く示されています。

- 「近年の酷暑で屋外での活動が制限される中、**子どもたちが安心して遊べる屋内施設**をなくさないでほしい」
- 「スイミングに通うことで、喘息持ちや体が弱かった子が風邪をひかなくなり、入院もしなくなった」
- 「自分自身も子どもの頃から利用していた。泳力向上だけでなく、協調性や自信をつける大切な教育の場になっている」
- 「小学校のプールが老朽化し、峰山まで授業に行っている現状がある。**網野で授業が行えるよう施設を存続させるべき**」

3. 地域間格差とアクセスの問題（公平性）

「峰山（民間プール）へ行けばいい」という行政の提案が、市民生活の実態とかけ離れていることが浮き彫りになっています。

- 「峰山の民間プールまでは、仕事や家事の合間に**往復40分以上の時間を捻出するのは物理的に不可能**」
- 「高齢者が自分で運転して峰山まで通うのは困難。近くにあるからこそ健康維持ができています」
- 「民間プールは料金が高額で、年金生活者や子育て世帯には**負担が大きい。公的責任**

として安価な利用環境が必要」

- 「網野、久美浜、弥栄、丹後町から店も人も減っている。便利さを峰山や大宮に集中させないでほしい」

4. 既存ストック活用への具体的提案（財政・観光）

「新設」ではなく「今あるものを大切に使うべき」という建設的な意見が多く見られません。

- 「老朽化は理解しているが、**規模を縮小してでも、必要最低限の修繕で存続**させてほしい」
- 「解体費用や新設費用をかけるくらいなら、今ある施設を補強して役立ててほしい。**SDGs 未来都市の理念にも反する**」
- 「雨の日に観光客が子どもを連れて行ける場所がない。海とセットで楽しめる貴重な観光資源でもある」